

# 家族と地域のちからを神戸の未来へ

## 神戸市会議員

市民の声、  
家庭の声を  
市政に

住み続けたい  
まちづくり

# 平木ひろみ

若者に選ばれるまち+誰もが活躍するまち



PORT OF

2017年1月1日に神戸港開港から150年を迎えました。

日本が外国に向けて港を開くことになり、1868年に神戸港も開港し、兵庫津の東隣（今の海岸通の北）に外国人が住む居留地を作りました。居留地の西隣には南京町ができ、徐々に会社・事務所を居留地に置き、坂の上に住む人が増え、北野異人館街が形成されていきました。

1963年には、パイプ鋼材で造られた世界初の神戸ポートタワーが完成しました。鼓のような美しい形は「鉄塔の美女」と呼ばれ、今も神戸のシンボルです。

1967年、摩耶ふ頭に日本で初めてのコンテナ船が入港し、世界各国から神戸港に入港するようになり、1976年にはコンテナ取扱個数が世界2位になりました。1995年の阪神淡路大震災で壊滅的な被害を受けましたが、2年で全面復旧を果たしました。

神戸港開港150年



現在は北米・欧州・東南アジアなどの各港と結ばれ、震災発生前のコンテナ取扱個数まで港勢が戻っています。

2010年に神戸港は大阪港とともに「阪神港」として、国から「国際コンテナ戦略港湾」に選ばれ、世界につながる西日本の玄関口と位置づけられました。岸壁の水深を16メートルにしたり、クレーンのアームを63メートルに長くしたり、年々大型化するコンテナ船への対応を進めています。

開港150年を記念して、メリケンパークの全面改装オープンに引き続き、様々な行事が計画されています。3月には「世界で最も有名な客船」という名前を持つクイーン・エリザベス号が初の日本発着クルーズを行い、7月には国内外の帆船が神戸港に集結します。

今年の神戸港にご注目ください。

KOBE

## 2015年フランス視察のその後

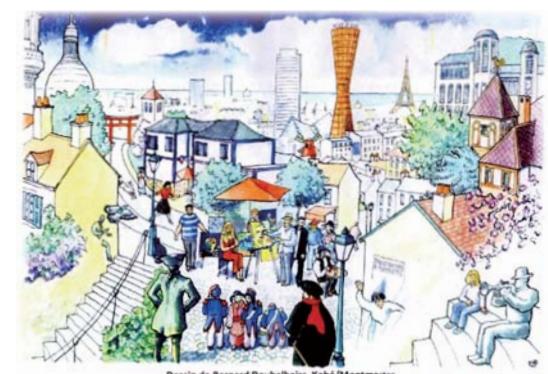
2016年のマルセイユ市での姉妹都市55周年記念行事では、久元市長による記念セミナーの開催や、経済団体の同行による経済交流などが実施されました。また、モンマルトル観光協会と北野・山本地区との交流では、モンマルトルの丘のワイン祭りでの神戸市ブースが設置され、神戸の名産品が紹介されました。

従来の儀礼的な姉妹都市交流事業に留まらない、新しい国際交流、都市間交流を、視察先であるマルセイユ市やモンマルトル観光協会にも提案してきた視察のち、神戸市に対しても提言をまとめ

たことが一歩前に進みました。

しかしながら、マルセイユ市でもモンマルトルの丘でも、神戸産の日本酒、ワイン、ビーフなどの紹介をして好評を得たものの、本格的な現地での販売については輸出手続きの難しさなどがあることが改めて認識されました。これは今後継続して官民協力して取り組むべき課題です。

12月のマルセイユ市訪問団は、経済界を含め30名以上が参加され、神戸でビジネスセミナーを開催するなど、今後の両市の関係強化に期待が持てる内容となりました。



神戸の北野坂とモンマルトルの丘の友好関係を表したイラスト

神戸には 日本初 がいっぱい!

神戸発祥のものというと何を思い浮かべますか？  
神戸には、神戸で生まれた文化だけでなく、外国から神戸に伝わり、神戸で育まれ全国に広まったものもたくさんあります。

民進こうべ政策議員団  
**平木 ひろみ**

- ラムネ製造（レモネード）
- 豚まん（豚肉饅頭）
- ゴルフ（六甲山）
- マラソン（湊川⇒新淀川西成大橋）
- 海洋気象台（海運業者）

- デパートの土足入場（新開地白木屋）
- パーマ（神戸に上陸）
- カラオケ（弾き語りから）
- ブラジル移住（初の移民船「笠戸丸」）
- 水族館（水産博覧会の和楽園）



## しあわせの村のステップアップ

神戸で「様々な立場の人たちが一緒に居心地よく暮らす」取り組みができる場所がないかと考えると、しあわせの村は絶好だと考えます。村内には、現在、障害者施設、医療施設、高齢者施設、温泉もある保養施設など多くの人が交わる資源がたくさんあるものの、それぞれに独立・完結していく縦割り感があり、連携が取れているとは思えません。

しあわせの村は「多様な人が居場所と役割を実感できるソーシャルインクルージョンの実践の場」を従来から目指してきたということですが、次の時代を見据えたステップアップをしていく時期がきているのではないかでしょうか。

シルバーカレッジ卒業生の方々は、村外各地域で積極的にボランティア活動などをされていますが、村内各施設との関係は、イベント等での関わりに限られているのではないかでしょうか。各施設と連携したコース設定など、

卒業後も含めた村内連携の取り組みが必要だと考えます。

また、現存の各種施設の交流の拡充に加え、村内なら近隣との調整も不要ですから、障がい者や高齢者の「自立して生活できることを目指すグループホーム」なども、自然に恵まれた環境の中で、設置できるのではないかと思います。

グループホームを作るとなると、自立生活を助けるような生活利便施設、食料品や日用品を販売する店舗も必要になります。それは買い物できる場所を作るだけではなく、働く場所も創設することになります。「シェア金沢」では、その中の職場で、障がい者や高齢者が働き、ボランティアをされました。

しあわせの村にグループホームを整備し、村全体として多様な立場の方の生活の場、働く場を創設するモデル事業を実施してはどうかと考えます。

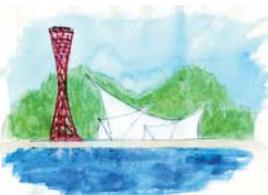
### シェア金沢

障がい児童の入所施設から始まったシェア金沢はその取り組みが全国的に注目を集めています。高齢者住宅、若者向け住宅、障がい者就労や生活支援、学童保育などの地域コミュニティ支援をしており、全世代の人々が「ごちゃ混ぜ」に暮らし、それぞれに力を活かして働くまちは、新しい暮らし、コミュニティのスタイルであると感じました。



## 実現した平木ひろみの提案

これまでの経験を活かした現場第一主義で、今後も活力ある神戸を目指して政策提言をしていきます。



### 神戸経済の活性化

- 時代を見据えた国際戦略の再構築
- 人材を呼び込む新たな誘致策
- 都心・ウォーターフロントを活かした魅力再生

### 教育

- 小学校英語必修化に伴う人材確保
- 日本語指導の必要な児童生徒への支援体制充実
- 神戸市外国語大学の経営戦略

### 観光・産業振興

- ひとり歩きできる市内案内表示整備
- 観光・MICEを産業ととらえての観光振興
- 「光の都こうべ」を活かした滞在型観光の推進

### まちづくり

- 神戸の顔としての都心三宮再整備の推進
- ポートアイランドの活性化と交通施策
- 都心の総合交通体系の見直し

### 市民福祉

- WHO神戸センターと協働した認知症対策の推進
- 高齢化社会のごみ収集体制の検討
- しあわせの村の時代を見据えたステップアップ

### 安全の確保

- 都心での帰宅困難者対策
- 密集市街地の安全確保
- 防災福祉コミュニティーとの連携



## 博物館・美術館のあり方



観覧料を免除すべきことが謳われています。

文化創生都市を標榜する神戸市として、市民共有の財産である芸術文化に触れる機会を少しでも多く作り、心豊かな次世代を育てるために、知恵と工夫で博物館、美術館の定期的な無料開放、まずは月1回の無料化に取り組むこと、定休日にも特別開館日を設けることなどを検討すべきではないでしょうか。



## 人材を呼び込む新たな誘致策



神戸市が国際都市として、グローバルに国内外から多くの企業・人材を呼び込むまちになるには、「神戸の暮らしやすさ」の魅力の発信が欠かせません。

神戸経済の活性化や市内での新たな雇用創出に向けた様々な取り組みにおいて優秀な人材の獲得競争が激化する中、国内人材に限らず、外国人研究者や外国企業を神戸に惹き付けるためには、企業に対する移転優遇措置や、優れた研究環境の提供や起業支援のみならず、多くの外国人学校を擁する多様な教育環境や、外国人に適した居住環境、恵まれた自然の情報などを英語で提供し、「神戸の暮らしやすさ」を打ち出して外国人とマッチングできる仕組みづくりを進める必要があるのではないかでしょうか。